

日本小児科学会こどもの生活環境改善委員会

Injury Alert (傷害速報)

No. 126 ナツメグ入りポップリの誤食による中毒

事例	基本情報	年齢：0歳8か月 性別：男児 体重：7.8 kg 身長：67.8 cm
	家族構成	父, 母, 本児
	発達・既往歴	特記事項なし
臨床診断名		ナツメグ過量摂取
医療費		入院 174,500円 外来 5,430円
原因対象	対象名称	香り付 ナツメグ
	入手経路 使用状況	家電量販店で上記商品の新品を購入。 児が生まれる前から同製品を買い替えながら使用していた。
発生状況	発生場所	自宅の寝室のベッド横にある棚（高さ約100 cm）の上に、粉碎したナツメグが入ったポップリをガラスの器に入れて置いていた。棚は軽く、それまでも児がつかまり立ちで揺らし倒れることが複数回あった。
	周囲の人 周囲の環境	母はトイレに行っていた。父は仕事で不在。
	発生日月	2022年3月X日（火） 午前10時0分
	発生時の 詳しい様子 受診までの経緯	事故発生時、母はトイレに行っており事故の目撃なし。児が啼泣したため母が見に行くと、ポップリに入っていたナツメグ（2 cm 大）を口に入れていた。母によると、おそらく児がいつものようにつかまり立ちでポップリの器に乗った棚を揺らし、器が倒れて中のポップリが床に落ちたとのことだった。棚は倒れておらず、器は棚の上で倒れた状態で床に落ちてはいなかった。母が児の口からナツメグの1/4個を取り出した。その後授乳し特に普段と変わらない様子であったが、母は不安になり午前11時半頃に医療機関を受診した。
医療機関受診時 以降の治療経過 転帰		全身状態は保たれており、バイタルサインも正常であったが、経過観察目的に1泊入院した。入院後もナツメグ中毒による症状は出現せず、入院翌日に退院した。退院後2か月時点で問題なく経過している。
キーワード		誤食, ナツメグ

【こどもの環境改善委員会からのコメント】

1. ナツメグはインドネシアのモルッカ諸島原産の常緑高木であるニクズクの乾燥種子で、甘く刺激的な香りがあり、漢方薬として使用される他、ハンバーグなどの肉料理の臭み消しとして用いられてきた歴史がある。ナツメグの精油成分にはミリスチシンとエレミシンが含まれており、それらの代謝産物であるMMDA（3-メトキシ-4,5-メチレンジオキシアンフェタミン）やTMA（3,4,5-トリメトキシアンフェタミン）により中毒症状が発現する。



図1 家電量販店で購入したポップリ（ナツメグ&バニラ）の外観

2. ナツメグ中毒の主な症状は以下の通りである¹⁾²⁾.
中枢神経症状：興奮，錯乱，強い不安感，幻覚
循環器系症状：頻脈，低血圧，ショック，一方で血圧上昇の報告もある
呼吸器系症状：頻呼吸，不規則な呼吸
抗コリン作用様症状：顔面紅潮，頻脈，唾液分泌低下（口腔内乾燥），縮瞳
摂取量によっては中枢神経抑制にも働き，傾眠，昏睡となることもある
3. ナツメグを経口摂取すると，摂取後1～8時間に症状が発現し，24時間程度で症状改善に向かうと言われている²⁾. 中枢神経症状は2～3日遷延することもあるので注意が必要である. 経口中毒量は5～15 gで，最小致死量は種子2個（1個=6 g）と言われている²⁾が，20～80 gのナツメグを摂取した7症例いずれも後遺症なく退院したという報告³⁾もあり，推定摂取量と重症度は必ずしも相関しない. 日本でも過去にナツメグを摂取した事例が複数報告されており¹⁾²⁾，海外ではナツメグ摂取後に死亡した事例も報告されている³⁾⁴⁾. 米国の中毒センターに集積されたナツメグ中毒32例をまとめた報告⁵⁾によると，17例が意図的でない摂取でありそのうち10例が13歳未満であった. 料理のために間違えて多く使用したなどでナツメグを過量摂取し中毒症状に至った5例は全て15～20歳の思春期の年代であった. この傷害速報事例は8か月乳児であり，ナツメグの3/4個程度を誤食した可能性があったため，症状の嚴重な経過観察を必要とした.
4. 近年，ナツメグは香辛料以外にアロマキャンドルなどのルームフレグランスとしても普及しつつあり，スーパーマーケットやオンラインでも簡単に購入できる. 料理以外の目的での製品については，特に誤食による中毒に注意すべきである. 手に入りやすい危険な製品のひとつとして，認識する必要がある.
5. 実行できる傷害予防策としては以下を挙げる.
 - ・まず過剰摂取により中毒症状が出現する危険な物であると認知する
 - ・乳幼児の手の届かない場所へ保管する
 - ・香辛料として保管する場合，チャイルドロックの容器に入れて保管する

参考文献

- 1) 藤網隆太郎，白川和宏，石田径子，他. ナツメグ中毒の1例. 日救急医会関東誌 2018；39：285-287.
- 2) 原口 愛，高橋 功，森下由香，他. ナツメグ中毒の1例. 日臨救急医会誌 2004；7：271-273.
- 3) Stein U, Greyer H, Hentschel H. Nutmeg (myristicin) poisoning report on a fatal case and a series of cases recorded by a poison information centre. Forensic Sci Int 2001 Apr 15；118：87-90.
- 4) Cushny AR. Nutmeg Poisoning. Proc R Soc Med 1908；1 (Ther Pharmacol Sect)：39-44.
- 5) Ehrenpreis JE, DesLauriers C, Lank P, et al. Nutmeg poisonings：a retrospective review of 10 years experience from the Illinois Poison Center, 2001-2011. J Med Toxicol 2014 Jun；10：148-151.